

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01862

研究課題名(和文) 対中央アジア政策の日中比較

研究課題名(英文) Comparative Analysis of the Japanese and the Chinese foreign policies towards Central Asia

研究代表者

ダダバエフ ティムール (Dadabaev, Timur)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：10376626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中央アジア諸国と中国と日本がどのような関係を構築し、その特徴や各国の外交政策の方向性を分析した。その結果、中国と日本のこの地域における協力の仕組みにおいて共通点があるものの、協力の仕組みにおいて異なる点が多いことが分かった。地域協力に関して、日本は開かれた地域主義を主張していることに対し、中国は地域諸国に限った仕組みを優先する。両国が対中央アジア政策においてエネルギー資源といった共通の関心分野はあるが、日本の場合、これらにおいて新たなインフラ建設より、日本の企業のノーハウを生かし、既存のインフラの改善事業により多く参加しており、中国は新たなインフラ建設に関心をもっている。

研究成果の概要(英文)：This research compares Japanese and Chinese policies in post-Soviet Central Asia (CA) by analyzing the similarities and differences in the approaches of the two Asian economic powers. This research develops several arguments: It argues that the Chinese engagements largely emphasize the creation of energy and transportation infrastructure (construction), while Japan's main areas of focus are the maintenance, modernization, and rehabilitation of current infrastructure. Thus, this research also suggests that China positions itself as CA's leading economic partner, while Japan is CA's leading assistance provider. These two roles have different implications. Furthermore, the current infrastructure engagements of Japan (from assistance to partnership) and China (from exploitation to contribution to the region) in CA demonstrate both countries' attempts to adjust and search for new opportunities.

研究分野：国際関係

キーワード：中央アジアの国際関係 日本の中東アジア外交 中国の対中央アジア政策 一帯一路 中央アジアプラ
ス日本

1. 研究開始当初の背景

中央アジア地域において、ロシアと中国はこの地域に関して関心を持っており、様々な政策を打ち出している。両国は中央アジア地域における安定と現状を維持することを強調している。中国政府は中央アジア諸国がガバナンスや人権問題に直面しているにも関わらず、これらの諸国の政府を支持している。さらに、中国主導の上海協力機構(SCO)や一帯一路政策の中の協力は中央アジア諸国と中国の関係において大きな機動力となった。

これらのイニシアティブと比べると日本の中央アジア地域における取り組みは、まだ初期段階にある。一方で、日本の中央アジア地域における地位はソ連の崩壊以来のODAや様々な支援により強化されてきた。

これらはこの地域における日本の存在を固定化したとも言える。同時に、日本側にも中央アジア地域にも日本と中央アジア諸国の関係の潜在力は現状のままでは十分にいかされていないという意見が多い。日本の支援プログラムの効果は多くの場合、中央アジアや日本の一般国民の期待に十分に届いていない。

2. 研究の目的

本研究は、中央アジア諸国と中国と日本とどのような関係を構築し、その特徴や各国の外交政策の方向性を分析した。中央アジア諸国とこの地域に接する超大国の間に見られる協力をどのように概念化するべきなのか？これらの協力関係に影響を及ぼす要因はなにか？日本はこの地域との関係をよりダイナミックにするために中国と中央アジア諸国の協力関係から何を学ぶことができるのか？本研究ではこれらの問題を取り上げる。

3. 研究の方法

本研究の主な特徴として、日本と中国の対中央アジア政策の様々な観点を比較した。その一環として各国政府の協力に関する見方と言説を比較し、日中政府が中央アジアにおいてお互いが協力できる仕組みの構築を試みている中央アジアプラス日本対話フォーラムと上海協力機構と一帯一路プロジェクトなどの分析を行い、日中の企業が中央アジア地域における活動とこれらの企業が参加するプロジェクトの比較を行った。

4. 研究成果

本研究は、中央アジア諸国と中国と日本がど

のような関係を構築しているのか、その特徴や各国の外交政策の方向性を分析した。その結果、中国と日本のこの地域における協力の仕組みにおいて共通点があるものの、協力の仕組みにおいて異なる点が多いことが分かった。地域協力に関して、日本は開かれた地域主義を主張していることに対し、中国は地域諸国に限った仕組みを優先する。両国が対中央アジア政策においてエネルギー資源といった共通の関心分野はあるが、日本の場合、これらにおいて新たなインフラ建設より、日本の企業のノウハウを生かし、既存のインフラの改善事業により多く参加しており、中国は新たなインフラ建設に関心をもっている。

以上からも明らかのように、中央アジアと日本の関係には潜在力がある。しかし、これまでの協力において、その潜在力が十分に発揮されてきたとは言えない。ソ連崩壊後における日本の中央アジア政策のもっとも大きな欠点は、目標とその目標を達成するための計画、そしてその関係におけるダイナミズムの欠如である。小泉首相(2006年)と安倍首相(2015年)の中央アジア訪問の目的は、従来の関係を変えて、更に強化することであった。しかし、それにはいくつかの課題がある。まず日本のこれまでの中央アジア戦略を見直し、部分的に再検討する必要がある。その過程でロシアや中国、韓国などの戦略から学ぶことは多いと思われる。日本の中央アジア政策の成功は複数の要因にかかっている。第一に、国家間協力においては機能主義のアプローチを使い、明確な目標の特定、段階的な協力の進化、一つもしくは二つの分野からの協力の展開である。限られた分野における協力の成功は更に拡大して新たな分野に広がると思われる。第二に、協力の効果を計るために、個々の事業の事前と事後の効果を計る評価基準を設けることである。そして、第三に、このような効果と人々の生活水準への影響こそ日本のイメージと日本への期待を形成していることを認識すべきであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- 1) DADABAEV, Timur. " Chinese Economic Pivot in Central Asia and Uzbekistan 's post-Karimov Re-emergence " , *Asian Survey* (University of California Press) (2018年7月、刊行決定済)。単著。査読あり。

- 2) DADABAEV, Timur. "Uzbekistan as Central Asian Game Changer: Uzbekistan's Foreign Policy Construction in the Post-Karimov era", *Asian Journal of Comparative Politics* (SAGE), (2018年7月、刊行決定済)。単著。査読あり。
- 3) DADABAEV, Timur. "Japanese and Chinese Infrastructure Development Strategies in Central Asia", *Japanese Journal of Political Science* (Cambridge University Press), (2018年12月、刊行予定)。単著。査読あり。
- 4) DADABAEV, Timur. "Engagement and contestation: The entangled imagery of the Silk Road", *Cambridge Journal of Eurasian Studies* (Veruscript), 2018年3月、2018 1 15、単著。査読あり。
- 5) DADABAEV, Timur. "Silk Road" as Foreign Policy Discourse: The Construction of Chinese, Japanese and Korean Engagement Strategies in Central Asia", *Journal of Eurasian Studies* (Elsevier), (January, 2018). 2018年1月、9 (2018) 30-41、単著。査読あり。
- 6) DADABAEV, Timur. "Contested Nature of the Silk Road in Central Asia", *East Asia Institute Working Paper*, pp. 1-50, *East Asia Institute*, Seoul, November 1, 2017年11月。単著。査読あり。
- 7) DADABAEV, Timur. "The Constructivist logic of Uzbekistan's foreign policy in the Karimov era and beyond", Uzbekistan Forum and Virtual Special Issue, *Central Asian Survey* (Taylor and Francis), September 30, pp.1-4、2016年9月、単著。査読あり。
- 8) DADABAEV, Timur. "Water-resource Management in Central Asia: A Japanese Attempt to Promote Water Resource Efficiency", *Journal of Comparative Asian Development*, (Francis and Taylor), pp.64-90, 2016年2月、単著。査読あり。
- 9) DADABAEV, Timur. "Japan's ODA Assistance Scheme and Central Asian Engagement: Determinants, Trends and Expectations", *Journal of Eurasian Studies*, (Elsevier), Volume 7-1 (January, 2016), pp.24-38, 2016年1月、単著。査読あり。

- 10) DADABAEV, Timur. "We want a state of our own!:Reconstructing Community Space in Bordering Areas of Central Asia", *The Journal of Territorial and Maritime Studies*, Special Issue on Civil Society and Borders in Asia, Volume 2, Number 2, pp. 31-54. 2015年7月、単著。査読あり。

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計3件)

- 1) DADABAEV, Timur. (with Tsujinaka Yutaka and Murod Ismailov), *Social Capital Construction in Post-Soviet Central Asia: Communities and NGOs in Post-Soviet Uzbekistan*, NY: Palgrave Macmillan, pp. 1-27, 29-55, 77-95, 2017年6月。共編著。
- 2) DADABAEV, Timur. (with Hisao Komatsu), *Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, NY: Palgrave Macmillan.1-147, 2017年1月。共編著。
- 3) DADABAEV, Timur. *Japan in Central Asia: Strategies, Initiatives and Neighboring Powers*, New York: Palgrave Macmillan.208頁。2016年1月。単著。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://tsukuba.academia.edu/TimurDadab>

aev

6. 研究組織
(1) 研究代表者

ダダバエフ ティムール (DADABAEV, Timur)
筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：10376626

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4) 研究協力者
()